

学校教育目標 「知・徳・体の調和がとれ たくましく 生きる力をもつ 子供の育成」

創立150周年を迎えた 地域とともにある学校



# 芦小だより

3つのあ「あいさつ・あんぜん・ありがとう」

令和6年3月19日 第14号

芦屋町立芦屋小学校

文責：勝木 久美

住所：芦屋町白浜町3786

電話：093-223-0059

全校児童数 180名

## 第137回 卒業証書授与式

校庭の桜の蕾がふくらみ始め、春の訪れを感じる青空のもと、第137回卒業証書授与式を行いました。別れを惜しみながら、卒業生21名が本校を巣立ちました。今年も、在校生を代表して5年生が参列し、卒業生の門出をお祝いしました。6年生は、全校児童のリーダーとして多くの場面で活躍しました。特に、縦割り大縄大会では、県スポコン広場での高記録をもとに、全校児童に見せてくれた集



### 保護者代表のごあいさつ

本郷 宣昭様から、心温まるお言葉をいただきました。職員一同心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

で挨拶「安全に生活」「ここから感謝(ありがとうの一言を)」ことは社会で生きていく上で大事なことです。あらためてご卒業おめでとうございました。



### 輝く5年生 受け継がれる、心・姿・伝統

前日の式場準備では一生懸命頑張った5年生。6年生が気持ちよく卒業してほしい！そんな思いを抱き、式中也真剣でした。5年生は常に、6年生の活躍する姿を見てきました。式では6年生を心から見守り「4月から、自分たちが芦屋小学校を引っ張るんだ！」そんな強い意志がひしひしと伝わった大活躍の5年生でした。5年生、ありがとう！



### 心の奥まで届いた歌声(5年生と合唱)

「♪旅立ちの日に」は、明日を信じ、広い世界へ旅立とうとする優しく勇気が出る歌です。体育館内に美しい歌声が響き渡りました。

団演技とパフォーマンスは、見る人の心を動かし、全校児童のあこがれモデルになりました。4月からは中学生になります。中学校は社会に出る第一歩を踏み出すところです。芦屋小学校で培った「笑顔



### 心地よくて見事な伴奏

伴奏は新田 あかりさん。ピアノの音色が心にしみました♪



卒業生二十一名の前途に  
幸多かれと願います。





## 応援の力

「応援の『力』」に関するおはなしです。ある研究によれば、周囲が考えや行動を認め支持する態度をとると、応援される側には、良い結果を導き出しやすくなる傾向がもたらされるそうです。また、応援する側にも、応援を続けることで褒め癖や褒める習慣が定着し、自分自身のことも含めて次第に物事を肯定的に捉えることができるようになるそうです。応援される側と応援する側の双方に好影響が及ぶ、「応援」。別の研究では、好影響をもたらすためには“要件”があるとされていました。挙げられていたのは、応援する側には、応援される側の様子を“きちんと見守り”、見取った具体的なよさを“褒める”こと。加えて、時には相手にとって耳の痛いことでもしっかりと伝える“公正さ”です。

間もなく、担任が児童一人一人に「**あゆみ**（通知票）」を手渡します。

あゆみは、担任が児童へ送る「応援」に他なりません。応援する担任が常々基本としてしていることは、児童のよさを伸ばすことです。

担任は、授業等で見取った一人一人の「できた（身に付いた）こと」や「できつつ（身に付きつつ）あること」に目を向け、更に意欲を持たせて促進しようとあゆみに向き合います。また、十分に表れ切れていないよさを引き出すために、今後、重点を置き指導したり家庭の協力を得て変容を促したりしたい内容について、意図や方法等を伝えるように努めます。

保護者の皆様には、担任の「応援」をお子さんが学校で見せる具体的なよさと捉え、対話の中で賞賛いただくとともに、学校の取組も話題にさせていただきたいと思います。併せて、日常、ご家庭で目にしたり感じたりしているお子さんのよさ等も、ぜひ、保護者の皆様の温かい言葉で伝えていただきたいと思います。

### お知らせ

本年度の教職員人事異動に係る学校の動きについてお知らせいたします。

従来、4月の始業式の日、転出する教職員の離任式と、本校に転入する教職員の着任式を行っておりましたが、昨年度から、修了式後に児童とのお別れ式を行うこととなりました。（転出先の発表はしません）

なお、正式な人事異動の発表は、これまで通り4月1日(月)の新聞紙上にて掲載されます。また、あらためまして4月始業後の学校通信にてお知らせをいたします。

### 学校内への自動車の乗り入れについて（お願い）

自動車等の乗り入れについて保護者の皆様に、次の点についてご協力とご理解をお願いします。職員も十分に注意いたします。特に児童の登下校時には十分ご注意ください。

- ① 学校内、通学路では、常に徐行に努める。
- ② 校門に入るとき及び出るときは、一旦停止をする。
- ③ 自動車の周囲に子どもがいないことを確認してから発進する。

